

令和5年度第1回外部評価モデル小委員会議事概要

- I. 日 時：令和5年10月10日(火)18:00~20:0
II. 場 所：Zoom 会議室
III. 出席者：角田担当理事兼委員、大原主査、片岡委員、竹内委員、服部委員、及川委員、児島委員、事務局：井端事務局長、山田職員

IV. 報告事項

令和4年度のビデオ試問による外部点検・評価・助言モデル構想の研究活動報告

事務局から、資料②「ビデオ試問による外部評価モデルの活動報告」に沿って、令和4年度までの外部評価モデル小委員会における活動として、思考力等の外部点検・評価・助言モデル構想案の見直し、思考力等の標準的な能力要素の到達度点検・評価・助言ルーブリック参照例の作成、学生への助言フィードバックの作り方、ビデオ試問コンテンツ試作例の見直しを進め、アクティブ・ラーニング・分野連携対話集会に意見を求めるなどの活動を展開した。対話集会では、文系・理系グループで5割、医療系6割から理解の共有が確認された。その上で、学修成果の質保証システムとしての有効性を検証するため、モデル構想を試行して実現可能性を研究する必要があるとして、パイロット化に向けた実施環境等の方針をまとめた旨の報告が行われた。

V. 検討事項

1. 令和5年度の活動方針及び検討スケジュールについて

事務局から、資料③「令和5年度における外部評価モデル小委員会の活動方針」に沿って、クラウド上で外部者がビデオ試問するモデル構想の実現可能性を検証する試行の詳細プログラムとして、パイロットプランの骨子を取りまとめるため、以下の検討スケジュールについて提案が行われ、3回の委員会で検討することにした。

- ・第1回 令和5年10月10日(火)18:00
 - ※ 思考力等外部点検・評価・助言モデル構想試行実験の意義
 - ※ モデル構想の仕組みの概要
- ・第2回 令和5年12月2日(土)10:00 予定
 - ※ パイロット化に向けた実施環境
- ・第3回 令和6年2月3日(土)10:00 予定
 - ※ パイロット化に伴う費用概算、実施時期・期間など

2. 思考力等外部点検・評価・助言モデル構想パイロット化に向けた詳細計画の骨格について

- ※ 思考力等外部点検・評価・助言モデル構想試行実験の意義
- ※ モデル構想の仕組みの概要

事務局から、資料④の「思考力等の外部点検・評価・助言モデル構想のパイロット化(試行実験)に向けた詳細計画(メモ)」について、検討した結果、次のような点を確認した。

- ① 複数の外部者が評価する点に特徴がある。
- ② 構想の位置づけが質保証を実現するためのシステムとして、明確になっている。
- ③ 専門家でも意見が異なる結論があるので、複数の視点で点検・評価した内容を学生に見せることに意義がある。答えが定まらない問題では、むしろ同じ意見になることは不自然と思う。
- ④ 外部評価者の意見がそれぞれ異なる場合、どのように学生に伝えるかが大事と思う。学生からも意見を聞き出し、大会など広い場で発表させて議論してはどうか。
- ⑤ 外部評価者同士の意識合わせは、試問と到達目標のルーブリックについて事前に外部者間

で点検・評価の内容・レベルについて十分協議することになっている。

- ⑥ 対象学生は PBL で思考力等の訓練を受けた学生とし、規模は 20 名以内とする。
- ⑦ 試行実験に大学の支援が確実に得られるよう、大学長に試行実験に対する理解と支援への協力を文章で依頼する。
- ⑧ 分野別の外部者は、試行実験に参加する本委員会の委員、委員が考える大学教員 1 名と自治体関係者又は企業関係者 1 名の 3 名とする。
- ⑨ 具体的な外部者の候補については、次回委員会で今回出席の経済学分野（児島委員）、工学分野（角田委員）、栄養学分野（服部委員）の各委員で検討いただき、決定することにした。
- ⑩ 試行実験の結果について、文部科学省、可能であれば米国の EDUCAUSE を通じてセンセーショナルな話題を提供していきたい。

3. その他（次回検討事項の確認等）

今回は、12 月 2 日とし、3 分野の外部者の決定、パイロット化に向けた実施環境について検討することにした。